



国土交通省
福島工務事務所
松川砂防出張所

松川砂防つうしん

H14.9.11

Vol. 7



松川流路工特集 (part1)

流路工とは、扇状地など柔らかい地質の土地で、川が左右に方向をかえたり、河岸や河床が、流れの勢いでえぐれてしまったり、逆に土砂がたまってしまったりして、洪水の際に、人家や田畑に大きな被害を与えることがないように、土砂や洪水の **安全な流路** をつくり、速く安全に下流に流す施設です。



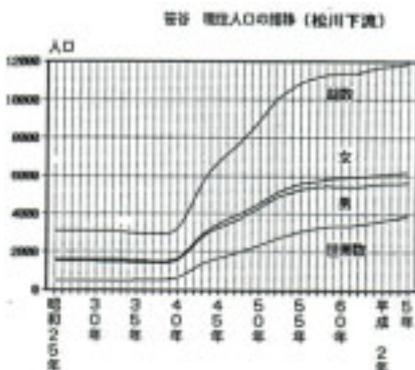
L = 4 2 9 7 m (護岸工ほぼ完成) 施設計画 { 床固工 9基(うち2基完成)
 計画高水量 $Q = 800 m^3 / S$ { 帯工 17基(うち4基完成)
 (100年に1度の大水の時の流量に耐えられるように設計されています。)

— 護岸工
 — 床固工
 — 帯工

現在、「松川流路工第13号帯工工事」を施工中で、今年度中に、「松川流路工第4床固工工事」に着手する予定です。

流路工は、ふつう「床固工」「帯工」「護岸工」を組み合わせたものです。

- 床固工** ... 河床の傾きを一定にするための工作物。
- 帯工** ... 川の流れをスムーズにする工作物。
- 護岸工** ... 河岸が川の流れによって削られないようにする工作物。



昭和40年代初頭の松川流路工



現在の松川流路工

松川沿岸地域では、昔から**水害**が繰り返され、江戸時代には、流路が変わるほどの**大洪水**も起きています。松川流路工は、沿岸住民の悲願ともいえるものだったのです。工事が着手された昭和39年頃から松川周辺の**人口が急激に増加**し、現在では、**新市街地**を形成しています。松川流路工の役割はますます重要なものになっています。

《行ってみよう企画》 米沢街道

にわかかやど すもんだいらやど
- 庭坂宿から李平宿 -

米沢街道は、福島から、笹木野・庭坂・李平・板谷・大沢の各宿場を経て米沢に出る街道で、15世紀に、当時福島盆地と米沢盆地を支配していた伊達氏によって開かれました。
明治時代に入って、栗子峠を越える万世大路が開通し、役割を終えました。現在は国道13号がその役割を担っています。

李平宿について

李平は、慶長18年(1613)上杉家臣 阿部薩摩が開設し、米沢藩御用達の宿場として、賑わいましたが、明治35年7月の大火で、20戸のうち15戸が焼失した後、米沢街道が役割を終えたこともあって、大正7年に廃村となりました。

「山の神・愛宕堂合祀」

昔は社もあったそうですが、現在は、小さな祠のみがのこっています。



お地藏さんもあります。



「李平宿跡」

米沢街道入口から、かなりきつい山道を数百m走ると、李平です。現在は杉林になっていて、当時の面影はほとんどありません。



「大日大聖不動明王」 写真では見えませんが、岩の陰が沢になっていて、清水が流れています。マイナスイオンがでてるかんじです。



「米沢街道入口」

清水観音堂の看板がある方から入ります



「龍神地蔵水」

以前はただで清水がくめましたが、現在は有料です。この先にも、何カ所か、道端にわき水がみられます。江戸時代には、旅人がのどを潤したのかもかもしれません。



「清水観音堂」

安政3年(1856)には、この辺にあったとの記録が残っているそうです。



清水観音堂につづく階段です。右手の木は樹齢350年の大モミで、市の天然記念物に指定されています。



入口から、もう少し行くと、年季の入った意味あげな小さな石碑があります。



よってがんしょ!
松川砂防出張所へ

お気づきの点や知りたいことなど、お気軽にどうぞ!

発行: 国土交通省 東北地方整備局

〒960-2261 福島市町庭坂字遠原3-1

福島工事事務所 松川砂防出張所

TEL 024-591-1207 FAX 024-591-5527

福島工事事務所ホームページ

<http://www.fks-wo.thr.mlit.go.jp/>

